

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス にじいろ			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 8日 ～ 2025年 12月 15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数)	20
○従業者評価実施期間	2025年 12月 8日 ～ 2025年 12月 15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 22日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	事業所を出てすぐの場所に運動場がある立地を活かし、日常的に身体を動かす活動を取り入れている。子ども達が気軽に屋外で活動できる環境であることから、気分転換や体力づくりだけでなく、集団でのルール理解や順番を守る経験等につながるよう支援を行っている。また、子ども一人ひとりの体力や特性に配慮し、無理のない範囲で活動内容を調整することで、安全面にも十分留意しながら取り組んでいる。	今後は、運動場を活用した活動の内容をより充実させ、季節や天候に応じた運動や遊びの工夫を行っていくことが考えられる。また、子ども達の成長や興味関心に応じて、集団活動や協力して取り組む遊びを段階的に取り入れることで、身体面だけでなく社会性や自己肯定感の向上につながる支援の拡充を図っていきたい。
2	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	活動プログラムが固定化しないよう、子ども達の興味や発達段階、季節や天候に応じて内容を工夫している。日々の様子や反応を踏まえながら、運動、創作、集団活動等をバランスよく取り入れ、同じ活動であっても進め方や目的を変えることで、多様な経験につながるよう意識している。また、職員間で意見を出し合いながら活動内容を検討し、柔軟な対応を心がけている。	今後は、活動内容の振り返りや記録を活用し、子ども達の反応や成果を共有することで、より計画的に多様なプログラムを検討していく。また、子ども達の意見や要望を取り入れる機会を設けるなど、自主性や意欲を引き出す活動づくりを通して、プログラムの幅をさらに広げていきたい。
3	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	家族等が気軽に相談できる関係づくりを心がけている。子育てに関する悩みや不安については、子どもの様子を踏まえながら丁寧に話を聞き、必要に応じて面談の機会を設け、助言や支援を行っている。また、家族の気持ちに寄り添いながら、子どもの成長を共に支えていく姿勢を大切にしている。	今後は、相談内容や対応について職員間で共有・整理し、より一貫性のある支援につなげていくことが考えられる。また、面談の機会をより柔軟に設定するなど、家族が相談しやすい体制づくりを進め、必要に応じて関係機関との連携も視野に入れながら支援の充実を図っていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか？	現在、事業所内での活動や支援体制は一定程度整っており、日常的な支援に大きな支障はないと考えている。一方で、放課後児童クラブや児童館、地域の他の子どもとの交流については、感染症対策や活動時間・安全面への配慮、関係機関との調整の難しさ等から、計画的・継続的な機会の確保には至っていない状況がある。そのため、地域交流の機会が限定的になっている点を、今後検討の余地がある事項として捉えている。	今後は、事業所内の活動を基本としつつ、放課後児童クラブや児童館等の地域資源について情報収集を行い、可能な範囲で交流の機会を検討していくことが考えられる。無理のない形での合同イベントへの参加や、行事・催しの見学等、子ども一人ひとりの特性や安全面に配慮した段階的な関わりを工夫することで、地域とのつながりを広げていくことが今後の取組として考えられる。
2	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	日々の支援を通して、職員は子ども一人ひとりの特性や状況を把握し、専門性を活かした支援を行っていると考えている。一方で、子どもの成長や環境の変化に伴い、支援ニーズや課題が変化することもあるため、常に最新の理解を共有し続けることが重要である。職員間での情報共有や支援方法の振り返りについて、より体系的に行う余地がある点を、今後の検討課題として捉えている。	今後は、支援記録やケース検討の機会を活用し、子どもの特性や支援方法について職員間で定期的に共有・振り返りを行うことが考えられる。また、研修や勉強会への参加等を通じて専門性の維持・向上を図り、子どもの状況に応じた支援が継続して提供できるよう工夫していくことが必要である。
3	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	事故や怪我等が発生した際には、保護者への速やかな連絡や状況説明を行っており、現時点では大きな支障はないと考えている。一方で、事故の内容や緊急性に応じた連絡方法や説明の仕方については、より分かりやすく統一的行う余地がある。職員間での対応の判断基準や情報共有の方法について、今後さらに整理していく必要があると捉えている。	今後は、事故発生時の連絡手順や説明内容について、職員間で共通認識を持てるようマニュアルの確認や見直しを行うことが考えられる。また、記録の整理や振り返りを通して、再発防止や保護者へのより丁寧な説明につなげていくなど、対応の質の向上を図っていく。